

発見された遺物

竪穴住居跡や土壌を発掘していると、土の中からたくさんの遺物が出てきます。その大半は細かな土器のかけらですが、なかには完全な形の土器や石器、大昔の人々が身につけたアクセサリーなども出土します。



縄文土器

粘土を焼いてつくった素焼きのうつわで、大半は食物を煮炊きするために使われました。時代ごとに特徴的なデザインを持っているため、遺跡の年代を知るための手がかりになります。

土製耳飾り

耳たぶに穴をあけて差し込んだ縄文時代のピアスです。
←左のものは表面に赤や黒の塗料が残っています。

なぜ発掘をしているの？

わたしたちの生活を便利にするために、日本中で住宅や道路・公共施設などの開発がおこなわれています。しかし、これから開発がおこなわれようとしている大地の下には、たくさんの遺跡が眠っています。これらは遠い先祖のくらしぶりを知ることのできる教科書のようなものなのです。



「財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団」は、そのままでは失われてしまう遺跡を発掘調査して、そこにどんな遺跡があったかを記録保存する仕事をしています。



諏訪野遺跡

すわの
いせき



さいたまけんまいぞうぶんかざいちょうさじぎょうだん
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、
「首都圏中央連絡自動車道（圏央道）」
建設のための事前調査として
さいわのいせき
桶川市諏訪野遺跡の発掘調査を進めています。

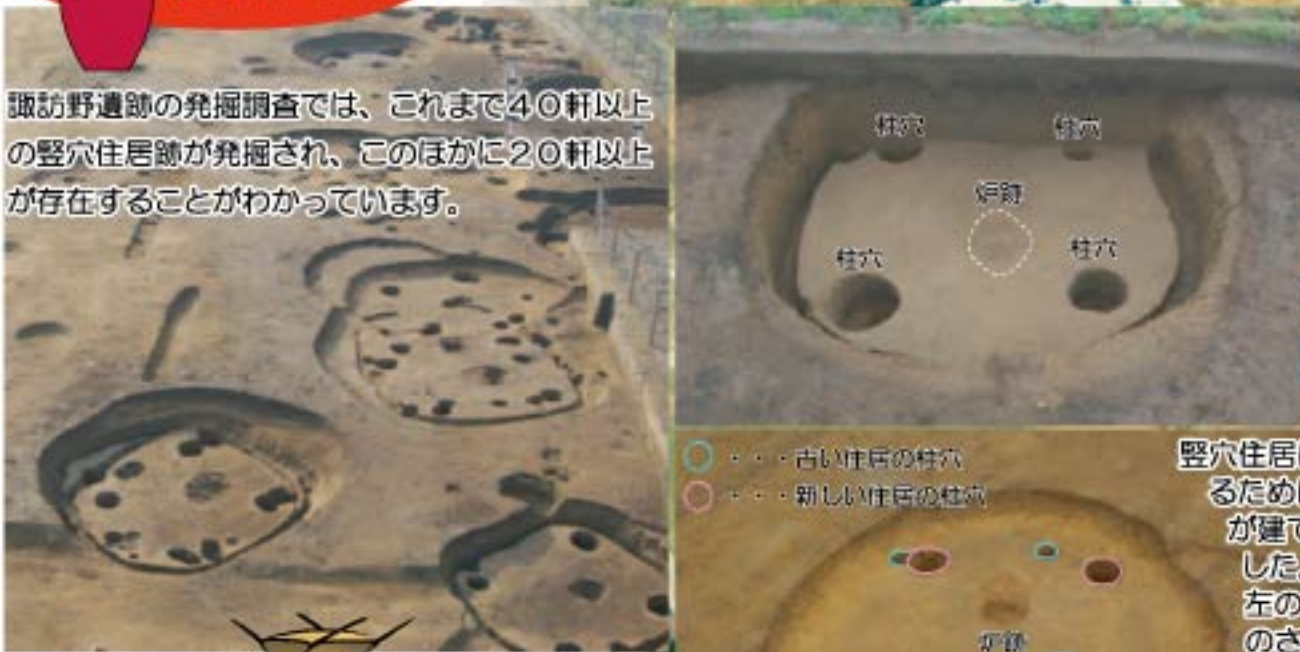
現在わたしたちが立っている大宮台地には、東西からいくつもの谷が刻まれています。こうした谷のなかのひとつ、《江川》の谷筋の奥深くに、諏訪野遺跡は位置しています。谷に面した高台の上には、縄文時代中期（約5000年前）のムラがつかれました。また、谷沿いの湿地は水場として利用され、縄文時代の後期（約4000年前）や前期（約5500年前）の土器・石器のほか、当時のひとびとが食べた木の実等が出土しています。

空から見た 諏訪野遺跡



竪穴住居跡

諏訪野遺跡の発掘調査では、これまで40軒以上の竪穴住居跡が発掘され、このほかに20軒以上が存在することがわかっています。



●●● 古い住居の柱穴
○●● 新しい住居の柱穴

竪穴住居に長い間住み続けるために、しばしば上層が建て替えられていました。左の住居は建て替えのさいに竪穴を掘り広げる「拡張」が行なわれています。今で言う「建て増し」みたいなものではないでしょうか。

たてあな 竪穴住居跡って何？

地面を掘り下げた「竪穴」の上に柱を立てて屋根を乗せた大むかしの家のあとです。
関東地方では今から1000年くらい前までごく普通に使われていました。



土壙群



竪穴住居跡群の中に、直径1m前後の穴(土壙)がたくさん集まっている場所が数箇所あります。これはムラの住人たちが亡くなったひとを葬った共同墓地と考えられています。

集石遺構

深い穴の中やその周囲から、赤く焼けてススがかぶりついた小石がたくさん出てきました。これは石の余熱を利用した「石蒸し料理」を行なった跡と考えられています。



★石蒸し料理の一例

河原などで手頃な大きさの石を集めてくる。地面に穴を掘り、中で焚き火をして集めた石をよく焼く。

↓
焼石をいったん取り出す。肉や魚・芋などの食品を木の葉等にくるみ、焼石といっしょに穴につめこむ。

↓
土をかぶせ、上から水をかけて蒸し焼きにする。

環状集落



縄文時代のムラは竪穴住居跡が円形またはC字形に並んでいることが多く、これを「環状集落」または「馬蹄形集落」と呼んでいます。諏訪野遺跡の縄文ムラは直径200m近い大きなもので、しかもこれらの竪穴住居がきわめて短期間のうちに造られている点に特徴があります。